

# IV

## 特殊学級における生活単元学習の充実

### 1 特殊学級における生活単元学習の位置づけと、他の指導の形態との関連

#### (1) 教育課程における生活単元学習の位置づけ

特殊学級は特別の教育課程を編成してよいことになっています。学校生活のテーマに沿った生活単元学習を一定期間継続していくことこそ生きる力を育てていくものであり、見通しを持って学習に取り組めるようにするには、毎日同じ時間帯に生活単元学習を位置づけるようにしたいものです。

#### (2) 他の指導の形態との関連

領域・教科を合わせた指導以外では、教科別・領域別の指導があります。教科別の指導は系統的な内容の指導をすることになります。生活単元学習で昨年と同じ単元名の学習する場合は、今の子どもの状態を的確に把握しどの子もめいっぱい取り組める状況にすることです。生活単元学習と教科別の指導を週時程に組んでいる場合は、教科別の指導は、生活単元学習と関連づけた内容にすることが大切です。たとえば、「体育会をしよう」という単元では、期間中の国語の授業で招待状を書いたり、図工の授業でポスターを描いたりするとよいでしょう。生活単元学習で買い物をするときは、金銭について算数の授業で学習をします。

### 2 単元の構成、授業づくりの配慮点

#### (1) 単元の構成の配慮点

##### ① 子どもの生活から出た単元設定をすること

単元は遊びに関するもの、栽培や調理に関するもの、遠足や合宿に関するもの、演劇や演奏に関するものなどたくさんあります。「秋をさがそう」よりは「木の実をさがそう」、「学習発表会」よりは「…の劇をしよう」の方が子どもたちに分かります。

##### ② 子どもの生活の流れやまとまりをひとくくりにした活動内容にすること

単元の導入で目当てや計画を話すより、「〇〇でキャンプをしよう」という単元ならば、最初にキャンプ場に行ってここでバーベキューをしよう、テントを張って泊まろうという方が期待感が高まります。「カレーライスを作ろう」では、材料を買って調理して食べるのがまとまりです。「カレーライス」や「ジャガイモ」などの文字の練習とか、足し算、引き算を練習するなど教科の時間に指導すればいいことです。

##### ③ 同じ活動を繰り返しながらもより主体的に活動できるように工夫・改善していくこと

一定期間同じ活動を繰り返していくことは子どもたちに見通しと主体性を育てていくものです。子どもたちの活動の様子を見ながら、より主体的に、よりめいっぱい、より安全に取り組めるように活動内容や場の設定、教具・遊具・道具、手だてに工夫を加えたり、改善したりすることが大切です。

#### ④ 少人数の児童生徒数でもできる

一学級の児童生徒数が一人や二人の学級でも一つのテーマのもとに活動内容を子どもに応じて設定することができます。教師とともに遊び場を作って通常の学級に呼びかけて一緒に遊ぶとか、お世話になった先生を招待し会食をするなどもいいでしょう。担任と一人の子どもで紙すきをし、卒業生全員の卒業証書を作り上げた学級もあります。

## (2) 授業づくりの配慮点

### ① 教科の指導の形態を離れて

1時間の授業の「導入」を一人一人のめあてを確認したり、「まとめ」でがんばったところを発表し、作文を書いたりなど、教科の指導と同じことをしないことです。自然な生活の中ではそのようなことをしないし、子どもの意欲や主体性をなくさないためです。

### ② 子ども主体の活動を設定して

子どもの興味・関心を大事にしながら、どの子ども主体的に活動できる一人一人に合った活動内容、場の設定、遊具・教具・道具を設定することです。

### ③ 子どもとともに活動する教師に

教師は計画し、指導しますが、常に子どもの支援者であり、協力者・協働者として、子どもとともに活動したいものです。一緒に遊び、一緒に作業することで、子どもの共感者になることができます。そして、さりげなく支えたいものです。

## 3 子ども主体の学習活動の展開

### (1) 目当てと見通しが持てるように

学習を進めていくうちに子どもたちが見通しがもてるようにすることです。「〇〇ランドで遊ぼう」では、定刻になったら遊ぶ場所に行って遊具で遊ぶという活動を繰り返していけば、子どもたちは自分からその場に行き遊ぶ活動を始めます。製品や作品を作るときは、作った数だけシールを貼って成果が分かるようにすると目標をはっきりさせることができます。

### (2) 子どもたちの生活上の目当てとできるテーマで

生活単元学習は実際の生活の中からテーマが出て、学習したことを実際の生活に返すことです。学校のバザーに作品や製品を出そう、そのために一定期間作っていこう、通常の学級の子どもたちに堆肥作りを教えようなど、子どもたちが主導し、主体的に活動します。

### (3) 子ども一人一人が活動できること

どんな子どもでもめいっぱい取り組み、うまく成し遂げられるようにできる状況を作り出すことです。「カレーライスを作ろう」では、手でタマネギの皮をむく子、包丁を使ってジャガイモを切る子、ピーラで皮をむく子がいていいわけです。

#### (4) 教師も子どもと協働して活動すること

教師が子どもと一緒に遊び、制作し、荷物を運ぶなどの活動をする時、子どもも教師と一緒に活動するようになります。子どもとともに遊び、ともに働くことで、子どもたち一人一人にとって教材・教具・遊具が適切か、思う存分活動できる内容になっているかを把握し、工夫・改善することができます。

#### (5) 今日に満足し明日を楽しみにする授業を实践すること

めいっぱい遊ぶ活動をした子どもは、めいっぱい働く活動に取り組みます。明日のために今日を犠牲にするのではなく、今日に満足した子どもは明日を楽しみにします。